

受入大学名	東京大学		
Host University	The University of Tokyo		
外国人研究者	マリア クラウジア カンディア デ ソウザ		
Foreign Researcher	Maria Claudia Candeia de Souza		
受入研究者	大月敏雄	職名	教授
Research Advisor	OTSUKI Toshio	Position	Professor
受入学部/研究科	工学系研究科 建築学専攻		
Faculty/Department	Graduate School of Engineering / Architecture Department		

<外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	ブラジル
Nationality	Brazilian
所属機関	ブラジリア大学
Affiliation	University of Brasilia
現在の職名	助教授
Position	Assistant Professor
研究期間	2024年01月10日～2024年03月15日 (66日間)
Period of Stay	66 days (January 10th, 2024 - March 15th, 2024)
専攻分野	建築教育
Major Field	Architectural Education



伊東豊雄氏へのインタビュー/ Interview with the architect
Toyo Ito.

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

<p>①研究課題 / Theme of Research</p> <p>In recent years, architects and scholars have emphasized the importance of disseminating architectural knowledge to the general public, aiming to enhance awareness of both natural and built environments for a more sustainable development of cities. This research focuses on architectural education for children in Japan and aims to analyze the case of the School of Architecture for Children (建築子ども塾) as part of the activities developed by the Non-Profit Organization 'Initiative for Tomorrow's Opportunities in Architecture (ITO)' (伊東建築塾), founded in 2011 by the Pritzker laureate architect Toyo Ito.</p>
<p>②研究概要 / Outline of Research</p> <p>This research aims to understand ITO's approach to raise urban awareness in children and the lessons learned in its 10 years of existence. It aims to map activities implemented by the Architecture School for Children focusing on the pedagogical strategies, topics addressed, target audience, inspiration behind the program and resources needed. To achieve these objectives the research was divided into four stages: 1) literature review on architectural education and urban literacy; 2) interviews with the school staff and key persons; 3) field survey (observation of meetings, classes, and class preparations); 4) participation on laboratory seminars and events to share thoughts and ideas.</p>
<p>③研究成果 / Results of Research</p> <p>Concerning pedagogical strategies, the school emphasizes teamwork by grouping elementary school students into 3-4 member teams, each assisted by teaching assistants, primarily architecture undergraduates. The main goal is to showcase architecture as a collaborative activity in the city-making process. While class themes evolve annually, a consistent exploration of the interconnected relationship between architecture, nature, and other living beings is evident, emphasizing a holistic perspective on sustainability rather than solely focusing on technical aspects of architecture. Following each class, teachers and TAs gather to discuss challenges and potential improvements, facilitating an ongoing evaluation of teaching methods.</p>
<p>④今後の計画 / Further Research Plan</p> <p>Recently in Brazil, national universities have been engaging in collaborative initiatives with local communities. Having conducted research at ITO's Architecture School, I am inspired to initiate an Architectural Education program at the University of Brasilia for elementary public schools. Additionally, I aim to publish articles detailing the Japanese case study and further explore similar initiatives in Brazil and Latin America.</p>

< 受入研究者からの報告/Research Advisor Report >

① 研究課題 / Theme of Research

近年建築学の領域においては、建築家や建築学研究者が、都市の持続可能な発展のために、自然環境と建築環境の両方に対する認識を高めることを目指し、一般市民への建築知識の普及の重要性を強調することが世界的な潮流となりつつある。日本においては、ブリツカー賞受賞建築家である世界的建築家である伊東豊雄氏が2011年に設立したNPO法人「建築の明日を拓くイニシアチブ (ITO)」(伊東建築塾)において展開する活動として、「子どものための建築塾」が、未来を担う世代へのアプローチとして注目されている。そこで本研究では、この建築教育活動に焦点を当て、その活動実態を明らかにし、次世代のための建築・環境教育のあり方を検討することを目的としている。

② 研究指導概要 / Outline of Research

本研究の目的は、子どもたちの都市に対する意識を高めるための伊東豊雄氏の教育プログラムとその運用実態、そしてこれまでの10年間で経験された教訓を理解することである。このため、伊東建築塾における教育戦略、扱うテーマ、対象読者、プログラム生成の背後にあるインスピレーション、実施において必要となる諸資源、に焦点を当てつつ、子どものための建築学校が実施している活動をマッピングすることを目論みた。このため、調査を次の4つの段階に分けて実施するように指導した。

- 1) 建築教育と都市リテラシーに関する文献調査
- 2) 学校スタッフおよびキーパーソンとのインタビュー
- 3) 現地調査(会議、授業、授業準備の観察)
- 4) 思考とアイデアを共有するための研究室セミナーやイベントへの参与観察

③ 研究指導成果 / Results of Research

今回の調査研究においての成果は以下のようにまとめられる。
・教育手法：小学生を3~4人のチームに分け、それぞれを主として建築学科の学生であるティーチングアシスタントがサポートすることで、チームワークを重視した教育方法を探っている。
・主な教育内容：都市づくりのプロセスにおける共同作業としての建築の紹介。授業のテーマは毎年変わるが、建築と自然、そして他の生物との相互関係を一貫して探求しており、建築の技術的側面だけに焦点を当てるのではなく、持続可能性に対する全体的な視点を重視している。各授業後には、教員とTAが集まり、課題や改善の可能性について話し合い、授業方法の継続的な評価を促している。
以上を通して、子どもたちが建築と環境の形成という課題を理解するために、多様な人々が関わっており、それらがチームワークを通して共同して物事にあたっていくことを重視していることが特徴だということが理解できた。

④ 留学生交流事業の活動状況 / Activities of International Student Exchange Program

近年、世界中の大学で、大学が地域社会の課題解決に積極的に取り組む傾向が強まっている。建築学分野でも、国際的ワークショップを通して、複数の文化的バックグラウンドの異なる学生たちが、特定の地域の特定の課題に対して、一定期間取り組むことを通じて、課題解決への関与もさることながら、学生たちが教科書からではない生の生活環境から課題の発見から解決までの総合的なプロセスを理解し、それを多様な人々の協働によって成し遂げることの教育効果の重要性が認識されつつある。
こうした中、今回の留学生交流事業では、日本で学位を取得した後に、母国で教鞭をとり始めた若手研究者が、大学生よりもさらに年齢の低い人々への、効果的な建築・環境教育法の改善を目的に、研究計画が打ち立てられた。JASSOからの援助、大学からの事務的サポートを経て、また、留学生本人が留学生時代に築いた人脈を駆使して、なかなか実態調査の難しい現場の貴重な情報を得て、分析することができている。
留学生交流事業の活動としては、こうした留学生による意欲的取り組みに対して資金的・人的サポートが提供できた点が評価できる。

⑤ 今後の計画 / Further Research Plan

当該留学生は、ブラジルの大学の教卓に戻っても、今回の交流事業の経験を活かしながら、当該国ではまだ極めて新しい、公立小学校を対象とした建築教育プログラムを立ち上げたいと考えているようである。こうした経験交流を、二国間のみならず、アジアやラテンアメリカなどの多国間に展開していくことが、差し当たっての今後の計画となる。



子ども塾で模型製作中/Making models at children's workshop.



子ども塾で模型製作中/Making models at children's workshop.